

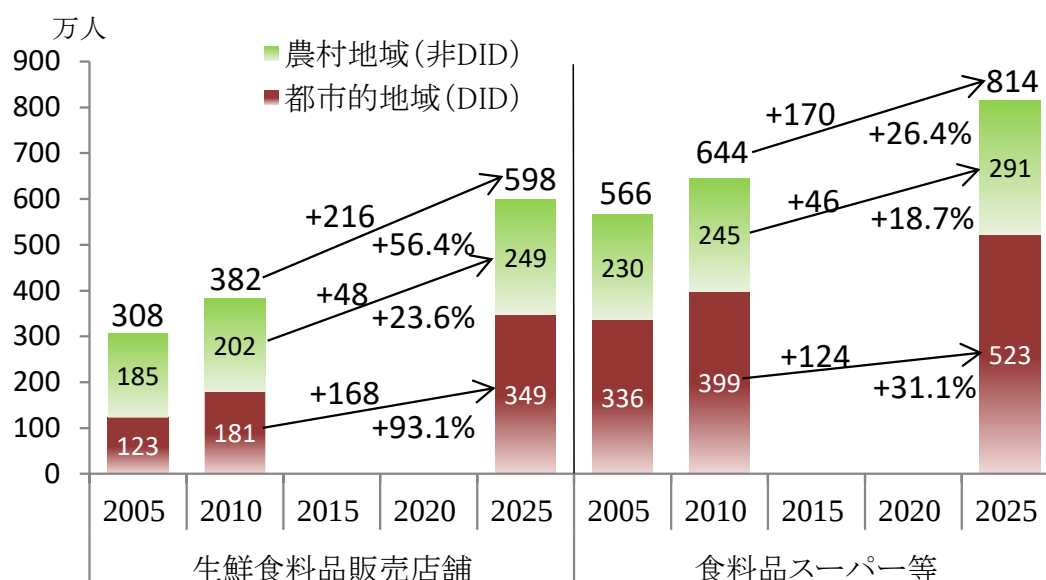
買い物に苦勞する高齢者、都市部で急増と推計 健康維持に悪影響の可能性

近年、食料品店の減少と高齢化の進展により、買い物に苦勞をしている人が増えています。

このため、店舗まで 500m 以上で自動車のない 65 歳以上の住民が買い物に最も苦勞していると想定して 2025 年の人口を推計したところ、598 万人に達することがわかりました（図参照）。特に、都市部での増加が顕著で、今後は都市地域で買い物に苦勞する高齢者が急増するといえます。ただし、子育て世代が買い物に苦勞している例もあり、地域や個人によって事情は様々です。

また、食料品アクセスが悪いことで、調理済み食品の購入が増えたり、摂取品目の数が減ることも明らかになり、高齢者の健康維持に悪影響を及ぼす可能性があります。

店舗まで 500m 以上で自動車がない人口の将来推計（65 歳以上）



※2005 年、2010 年は、2002 年、2007 年商業統計及び 2005 年、2010 年国勢調査を用いて推計。
※2025 年は、店舗数は 2022 年推計値、人口は 2025 年推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計。
※DID とは、人口集中地区のこと。

この成果の詳細については、農林水産政策研究所 Web サイトをご覧ください（以下参照）。

●食料品アクセス問題に関する情報

<https://www.maff.go.jp/primaff/seika/fsc/faccess.html>

●農林水産政策研究所レビュー No.63（2015 年 1 月）

https://www.maff.go.jp/primaff/kanko/review/attach/pdf/150129_pr63_02.pdf

●研究成果報告会（2014 年 10 月 21 日）

<https://www.maff.go.jp/primaff/koho/seminar/2014/index.html#20141021>